

平成30年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

平成30年度長期研修研究主題一覧

番号	所属校	氏名	研究主題
1	鹿児島市立吉野東小学校	上山崎恭平	一連の問題解決の活動を自ら行おうとする児童を育成する理科学習指導の在り方 －検証計画を発想し、他者と交流する活動を通して－
2	鹿児島市立坂元台小学校	岩下弥生	気づきの質を高める生活科学習指導の在り方 －伝え合い振り返る活動の充実を通して－
3	日置市立妙円寺小学校	三宅徹哉	主体的にコミュニケーションを図る児童の育成を目指す小学校外国語科の学習指導 －CAN-DOリストやルーブリックの作成・活用を通して－
4	薩摩川内市立水引小学校	田村敏郎	児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する道徳科授業の在り方 －各教科等との関連を図り、ねらいに迫るための話合いの工夫を通して－
5	薩摩川内市立里小学校	西 雄一郎	一斉指導において支援を必要とする児童が「分かる」、「できる」ようになる学習指導の在り方 －児童の困難さに応じた複式学級における算数科の指導過程と手立ての工夫を通して－
6	さつま町立盈進小学校	厚地隆範	学力向上に向けた組織的・協働的な授業改善の実現を目指して －校内研究との関連を図った学力向上推進委員会の取組の工夫－
7	さつま町立求名小学校	中村大介	筋道を立てて考える児童の育成を目指すプログラミング教育の在り方 －教科等におけるプログラミング体験を通して－
8	薩摩川内市立川内南中学校	川畑智子	数学的な表現力を互いに高め合う学習指導の在り方 －「説明し伝え合う活動」を通して－
9	霧島市立国分南中学校	前畑あさよ	じゃっど・すっど・きばっど 国分南中の新たな挑戦 －学校・家庭・地域の力を合わせた学力向上の研究－
10	肝付町立内之浦中学校	上 東 唯	社会生活につながる学びの実現を目指した国語科学習指導の在り方 －「学び合いを支える対話活動」を通して－

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
1	理科	上山崎 恭平	鹿児島市立吉野東小学校	一連の問題解決の活動を自ら行おうとする児童を育成する理科学習指導の在り方 －検証計画を発想し、他者と交流する活動を通して－	<p>本研究は、児童が自らの予想や仮説を基に「目的が明確になった、より妥当な検証計画」を発想する場面に焦点を当て、一連の問題解決の活動を自ら行おうとする児童を育成する理科学習指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、「発想の材料」と「発想の要素」を基に、個人で検証計画を発想させる。</p> <p>次に、同じ「予想」、「必要な実験器具」で検証計画を発想している児童同士でグルーピングを行い、グループで検証計画を発想させる。</p> <p>さらに、全体の間での交流や、「発想の要素」を基に、グループで検証計画を見直し、再検討する場面を設定し、「目的が明確になった、より妥当な検証計画」を発想させていく。</p> <p>このような活動を通して、児童に「見通し」をもたせる授業を行うことは、児童が問題意識を醸成、持続しながら、一連の問題解決の活動に取り組む上で有効であることが分かった。また、検証計画が書かれた「ホワイトボード」や、「やってみようシート」等から、児童の意識の変容を確認できたことは、今後の児童の情意面に関する研究に生かすことができると感じた。</p>
2	生活	岩下 弥生	鹿児島市立坂元台小学校	気付きの質を高める生活科学学習指導の在り方 －伝え合い振り返る活動の充実を通して－	<p>本研究は、生活科の授業において、気付きの質を高めるために、伝え合い振り返る活動の充実を中心に、授業改善を試みた研究である。</p> <p>具体的には、まず、授業で目指す児童の姿を具体化するとともに、これまでに育まれてきた児童の力を生かすことができるよう、情報収集の方法を工夫した。また、体験活動と表現活動の相互作用を意識した指導計画の改善や児童相互の伝え合いが生まれるための場の構成を工夫、意図的な言葉掛けを行った。さらに、振り返る活動においては、児童の伝えたい思いを大事にし、口頭で発表した内容を基に視点を例示したり、振り返りカードを選択できるようにしたりした。</p> <p>その結果、活動に熱中し没頭する姿、新たな気付きをもった喜びに満ちた表情、次の活動を心待ちにする姿が見られるなど、児童が気付きを自覚したり、関連付けて考えたりしながら気付きの質を高めることができた。</p>
3	外国語活動	三宅 徹哉	日置市立妙円寺小学校	主体的にコミュニケーションを図る児童の育成を目指す小学校外国語科の学習指導 －CAN-DOリストとルーブリックの作成・活用を通して－	<p>本研究は、教師が学習到達目標や評価基準を児童と共有したり、単元のゴールを意識した学習計画を工夫したりすることで、主体的にコミュニケーションを図る児童の育成を目指した研究である。</p> <p>主体的にコミュニケーションを図る児童を育成するためには、児童が学ぶ意義を感じながら学習に取り組めるようにすることが大切であると考えた。そこで、CAN-DOリストとルーブリックを作成・活用することや指導計画を工夫することを中心に研究を行った。</p> <p>その結果、授業の始めには見通しを明確にもち、終わりには自分に付いた力を実感したり、次への目標をもち、学ぶ意義を感じながら主体的に学習に取り組んだりする児童の姿が見られた。</p>

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
4	道徳	田村敏郎	薩摩川内市立水引小学校	児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する道徳科授業の在り方 ー各教科等との関連を図り、ねらいに迫るための話合いの工夫を通してー	本研究は、各教科等との関連を図り、ねらいに迫る話合いの工夫を通して、児童が道徳的価値のよさを理解し、自らの成長を実感する道徳科授業の在り方について研究したものである。 各教科の学習との関連を図るために、より実効性をもたせた別葉の改善や、補充、深化、統合の学習活動を設定し、それに応じた中心発問の在り方について明らかにした。ねらいに迫る話合いの工夫については、ホワイトボードや思考ツールを活用することで、話合いの視覚化による効果を検証した。 その結果、児童は自分たちの考えが深まってくことを実感することができた。また、自分との関わりで捉えている児童や多面的・多角的な見方をしている児童も把握しやすくなり、評価にも生かすことができた。本研究を通して、道徳的価値のよさについて話し合い、他者の意見を取り入れたり自分の考えに自信をもったり、新たな課題をもったりして、自らの成長を実感する児童の姿が見られるようになった。
5	特別支援教育	西雄一郎	薩摩川内市立里小学校	一斉指導において支援を必要とする児童が「分かる」、「できる」ようになる学習指導の在り方 ー児童の困難さに応じた複式学級における算数科の指導過程と手立ての工夫を通してー	本研究は、一斉指導において支援を必要とする児童が、複式学級における算数科の授業において、学習内容を「分かる」、「できる」ようになるための学習指導の在り方について研究したものである。 具体的には、まず、実態調査の分析を基に、一斉指導において支援を必要とする児童が「分かる」、「できる」ようになる複式学級における算数科の指導過程のモデルを構築した。次に、各指導過程における対象児童の目指す姿を設定し、児童の学習上の困難さに応じた学級全体への手立てと個に応じた手立てを整理し、それを取り入れた授業を実施した。授業後は、ノートやワークシート、授業映像を基に指導過程と手立ての有効性について検証した。 その結果、対象児童が学習内容を「分かる」、「できる」ようになってきた。このことから、児童の学習上の困難さに応じた複式学級における算数科の指導過程のモデル及び学級全体への手立てや個に応じた手立てが有効であることが分かった。
6	組織としての学力向上	厚地隆範	さつま町立盈進小学校	学力向上に向けた組織的・協働的な授業改善の実現を目指して ー校内研究との関連を図った学力向上推進委員会の取組の工夫ー	学校全体における学力向上のためには、日々の授業の充実が重要だと考える。本研究は、校内研究との関連を図った学力向上推進委員会の取組を工夫することで、組織的・協働的な授業改善の実現を目指したものである。 具体的には、まず、校内研究との関連を図った授業改善の日常化に向けた組織的・協働的な取組の推進を図るといふ、学力向上推進委員会の役割を明確にした。そして、組織的・協働的な授業改善が実現している教員の姿を想定し、その実現のために、相互授業参観、座談会①、それぞれの授業、座談会②という授業改善サイクルを構築し、それぞれの取組が同僚性を発揮した取組となるように、相互授業参観シートや座談会ボード、授業リフレクションメモなどの工夫や具体的な手立てを行った。 その結果、授業実践上の成果や課題の共有が図られ、それぞれの教員の授業改善の推進に関する意識の向上につながった。また、授業改善に関する業務に対しての負担感の軽減や共有した情報の視覚化により、学校一丸となった授業改善の推進が一層図られた。

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
7	プログラミング教育	中村 大介	さつま町立求名小学校	筋道を立てて考える児童の育成を目指すプログラミング教育の在り方 ー教科等におけるプログラミング体験を通してー	<p>本研究は、筋道を立てて考える児童の育成に関わる、一連の学習指導の中に、プログラミング教育を取り入れて実践研究したものである。</p> <p>具体的には、筋道を立てて考えることの、順序よく考えることや根拠を基に考えることを中心にプログラミング教育を充実させ、算数科や総合的な学習の時間におけるプログラミング体験の指導方法の工夫や授業構想を行った。</p> <p>その結果、教科等においてプログラミング体験を取り入れることで、児童は順序よく考えることや、根拠を基に考えることを効果的に意識するようになった。また、プログラミング体験により、自己の考え方を振り返る児童や、相手意識をもって伝えようとする児童の姿を見いだすことができた。</p>
8	数学	川畑 智子	薩摩川内市立川内南中学校	数学的な表現力を互いに高め合う学習指導の在り方 ー「説明し伝え合う活動」を通してー	<p>本研究は、生徒が数学的な表現を用いて自分の考えを表現し、それを他者との関わりを通して高め合い、考えることの楽しさや主体的に学ぶ喜びを実感できる数学科の授業を目指して研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、数学科における数学的な表現力について明らかにし、数学的な表現力を高め合う生徒の姿を整理した。次に、本校の生徒の実態を基に、数学的活動において、学習課題の工夫、数学的な表現を用いて説明し伝え合える手立ての工夫や指導の在り方、振り返りの工夫を考え、授業を通して研究の検証を行った。</p> <p>その結果、生徒は、数学的な表現を使うことを通して、そのよさを実感しながら、数学的な表現を適切に用いて、自分の考えを筋道立てて分かりやすく説明し伝え合うことができるようになった。このようなことから、問題解決の過程で説明し伝え合う活動を充実させる指導の工夫することは、数学的な表現力を高める上で、有効であることが分かった。</p>
9	組織としての学力向上	前畑 あさよ	霧島市立国分南中学校	じゃっど・すっど・きばっど 国分南中の新たな挑戦 ー学校・家庭・地域の力を合わせた学力向上の研究ー	<p>本研究は、次代を担う生徒たちに、これからの社会に対応できる確かな学力を身に付けさせるために、学校・家庭・地域が力を合わせて学力向上を目指すことを研究したものである。</p> <p>この研究を進めるために重要なことは、学力向上を目指す組織づくりと生徒一人一人の学びの姿に視点を当てたことである。最初のテーマ研究では、本校の課題の共有化を図り教科等横断的な視点での共通目標の設定を行った。そして、「共通目標」の検証と「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善についてのテーマ研究を3回積み上げ、「南中『主体的・対話的で深い学び』スタンダード」を完成させた。また、家庭学習と学校とをつなぐための取組や地域の素材を活用した授業を実施し、家庭・地域と学校をつなぐ取組を行った。</p> <p>得られた成果は、本校なりの理想とする生徒の学びの姿を描き、教科の枠を超えて、生徒の学力向上を目指して教員が同じ方向を向き歩み出したことである。</p>

番号	教科等	氏名	勤務校	研究主題	研究内容
10	国語	上東唯	肝付町立内之浦中学校	社会生活につながる学びの実現を目指した国語科学習指導の在り方—「学び合いを支える対話活動」を通して—	<p>本研究は、社会生活につながる学びの実現を目指した国語科学習指導の方向性を明らかにするために、「学び合いを支える対話活動」を学習過程に位置付け、国語科の学びと社会生活の様々な場面を具体的につなぐ指導の在り方について研究したものである。</p> <p>具体的には、まず、国語科の学びと社会生活の様々な場面のつながりを意識させるために、導入（見通し）・終末（振り返り）の工夫を行った。次に、連続性のある言語活動を設定することで、生徒が学びの高まり・深まりを実感できるようにした。さらに、助言し合う活動を重視し、助言の種類とその働きを整理するとともに、学習のねらいに応じた学習ツールの活用を取り入れ、「学び合いを支える対話活動」を位置付けた学習過程における指導の工夫を図った。</p> <p>その結果、生徒は学習を通して身に付けた言葉の力を明確に認識し、学習したことを社会生活の様々な場面でどのように生かせるのかを具体的に考えることができた。このような研究を通して、国語科で育成を目指す、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を身に付ける学習指導の在り方を明確にすることができた。</p>